

平成26年2月17日

日本リハビリテーション専門学校「第二回学校関係者評価報告」

- 1 日時
平成26年2月17日（月）15：00～16：00
- 2 場所
日本リハビリテーション専門学校 第二校舎六階
- 3 出席者
委員：高田、武市、古川、山下、栗原
事務局：二瓶、工藤、畠山、近野、篠田、鈴木雅、深瀬
- 4 会議内容

開催宣言（二瓶）
本日の予定（工藤）

～以下、議題に添って進行～
<議題>

- (1) 平成24年度自己評価報告書を踏まえた平成25年度学校関係者評価報告書（案）について

資料に添って説明（事務局 工藤）。

- (2) その他

- ① 入学時アンケート集計結果（平成25年度及び平成24年度）について
（事務局 工藤）

近年の傾向として、大卒が減り、男性が増えている傾向がある。

日リハを選ぶ理由として、実習時間・国試対策・就職状況を重視している学生が多くいることがわかる。

- ② 卒業時アンケート集計結果（平成24年度及び平成23年度）について
（事務局 工藤）

年度・学科・クラス・などにより、意見にかなりのばらつきが見られる。

【質疑応答】

武市委員：卒業時アンケートについては、年度・クラスによってアンケート結果の評価に大きな差が出ているのはなぜか。

事務局畠山：卒業年度によって学生の質に大きな違いがあります。また、教員の人事異動なども影響があると思います。根本的に教員はカリキュラムに基づいた教科科目の内容を教えているが、夜間部と昼間部で、学生の価値観の違いなども関係していると感じています。

武市委員：それにしても、差が大きいと感じるが。

事務局畠山：夜間部・昼間部それぞれの学生の特徴でもあります。それぞれに難しさがあります。

事務局近野：昼夜の違いは、授業をしていても反応が違う事などからも感じます。また、年度によってクラスの雰囲気や感性なども随分と違う

印象があり、ベースを合わせることの難しさがあります。

事務局深瀬：夜間部の場合は、前歴や性別による考え方の違いがかなり大きいと思います。成績が優秀だが学生同士の結びつきが弱いと感じる時があれば、その逆もあります。結果的にクラスの雰囲気など、学生の質の違いが意見となっていると思います。

事務局畠山：男性が多いクラスは個人主義になる傾向があります。クラスに中心となる学生がいるかいないかもあると思います。

武市委員：日リハを選んだ理由に就職状況がある。バラエティに富んだ人たちが集まっているが、実践的な人を育てていくことが大切である。個別指導が重要ではないか。

事務局深瀬：個別指導ももちろん大切です。実習年次などは特に感じます。

武市委員：就職指導の評価が良くないことはどう思うか。

事務局畠山：教員とうまく付き合えた学生は良い評価をしてくれていると思っています。うまくいかなかった学生が評価をしていないのではないのでしょうか。学校全体として就職セミナーなども行い、学生にとって良い就職ができるように努力しています。

武市委員：平成24年度の卒業生アンケートでは、各学科において就職指導や国家試験指導でかなり差が出ている。個別性を把握したうえで指導しているとはいえ、全体的な評価で、納得していない学生が多いのは現状として受け入れるべきであろう。自分からPRできる学生を育てることは、実践に使える学生を育てることとつながっているのではないか。

事務局畠山：マナー講座などで自己PRの仕方を指導しています。

武市委員：マナー講座などで教えている就職面接態度・マナーは社会一般のマナーとは別の事だと感じる。自己PR能力・自己主張ができる学生が実践的なのではないか。そのあたりが弱いことがアンケートにも表れているのではないか。

事務局畠山：学校としては、できるだけ公平に行う事が前提なので、それを考えながら指導しています。個別指導はタイミングがとても難しいと感じています。

武市委員：実習に関する指導と、それ以前の社会性・態度・言葉使い・人としてのマナー指導とが大切であるのではないか。

事務局畠山：グループ学習や全体発表など、自己PRの機会を与える授業も取り入れています。うまくできない学生は消極的になってしまいます。

武市委員：おとなしい素直な学生だけではなく、粗削りだが夢を持っている、エネルギーのある学生が減っているような感じもしている。

事務局畠山：教員は、学力の低い2割の学生のために、8割の仕事をしているような部分もあります。もっと有効的に使いたいという思いはあるのですが。

事務局深瀬：自分の思い描いている就職活動と学校としての就職支援と

の隔たりがある学生もいるようで、対応に苦慮しています。

事務局 畠山：フォローしてもらえなかったと感じる学生がいるのかもしれませんが。就職指導についてはこのアンケートを取った時よりも、今は手厚い就職指導をしています。

武市委員：いろんな思いがあると思うが、個人のレベル差がかなりあるのではないかと思う。ではどこにターゲットを絞るか。能力のある学生の対応はどのようにするのか。

事務局 畠山：工夫しながら個別に指導しています。

武市委員：努力されているのは理解しているが、アンケート結果を見ると残念ながら反映されていないので、前向きに改善する検討をしていかなければいけないのではないか。

事務局 畠山：おっしゃる通りです。ですが、自分の思い通りにならない学生が、評価を下げていようにも思います。

武市委員：日リハはほかの学校よりも、実習に力を入れていると思う。現場では、即戦力がほしい。実践的な学生を育てるために、どんな教育をしていくかが大切であろうと思う。

高田委員：日リハの学生は目的意識も持っていて、教員を尊敬しているように感じられ、大学生よりも良い印象を受ける。実践力を身に付ける指導をするのは、かなり至難の業である。社会人を経験している学生は、すでに自分が確立されている為、指導はさらに難しい。

事務局 工藤：学生がどう思っているかは考慮する必要があります。国試対策も学校としてはかなり手厚く実施していると思っていますが、まだまだ足りないという学生もいます。クラス担任だけでなく、学科の教員が全員でサポートしていくような形をうまく作ってあげればと考えています。そうすれば学生の不満も解消されていくのではないかと考えています。

事務局 畠山：サポートが不十分だったと感じている学生がいることは確かだと思います。

高田委員：主に成績の悪い人がこういった不満を感じているのではないか。

事務局 畠山：再実習に行く学生が増えてきました。そうするとどうしても時期的に就職指導や国試対策など十分に時間が取れなません。卒業させるために再実習に備えての個別フォローをすることが、悪いアンケート結果にもなってしまう面もあると思います。

高田委員：再実習に行く学生は、自分で自分がわかっていないから何時間話しても、満足してくれない。

武市委員：何%くらい再実習に行く学生がいるかわからないが、意欲の高い学生を育てる、アプローチが必要ではないか

高田委員：できる学生は自分で成長していける。中間層の学生を上にあげることがプラスに働くと思う。

事務局 畠山：学校の方針として、報奨金制度なども設け、頑張っている

学生は認めています。できる学生を中心に指導すると、学力の低い学生がついて来られなくなってしまいます。

高田委員：国試の勉強などでは、できる学生が学力の低い学生を組ませるとうまくいくケースがある。

事務局 畠山：国試の勉強では、グループ学習指導を行っています。グループ編成ではできる学生とあまりできない学生が同じグループになるように配慮しています。

事務局 畠山：以前は就職したい施設に就職できていました。今は必ずしもそうとは限らない現状が増えてきている事も関係していると思います。

古川委員：アンケートを取る時期が3月なので、このような結果なのだと思う。優秀な学生はすでに就職が決まっている。再実習に行かなければいけないような学生は、国試が終わってから就職活動するように先生方も指導していると思う。そうするとどうしても時間が少なく、不満を持ってしまいかもかもしれないが、自分の経験としても学校の就職支援は丁寧であったと思う。

武市委員：就職前に実際に先輩に来てもらって、仕事のイメージを持たせると意識の高い学生が育つのではないか。仕事・働くことに興味を持ってもらうことが大切だと思う。

高田委員：最近、人間関係が良いところ、楽に働けるところを希望する学生が多く、上昇気質が感じられない。学生と話をしていると、仕事に対する考えが乖離していると感じられる。

武市委員：専門学校はやはり、資格を取って就職するという目的がある学生が集まっているのではないか。

高田委員：大学は遊びに来ている学生も多い。

事務局 畠山：日リハは良い学生が多いですが、とても多くの事を勉強しなければならず、あまり余裕はないのかもしれない。

古川委員：なるべく仕事を抱えず、定時に帰る、休みをしっかりと取る人が確かに多い。

武市委員：情報過多の今、学生がPTOTを選ぶ基準が昔とは違う。高校の先生もまずは大学進学を勧めるでしょう。また、仕事をやめた人、大卒の人が手に職を付けるために専門学校に入る時代である。今と昔では努力に対する価値観が違う。やはり、いかに実践的な学生を育てるかが大切である。

事務局 工藤：本日は、たくさんの貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。いただいたご意見は、今後の就職指導や国家試験指導等に活用するようにしていきたいと思っております。

5 上記の委員のご意見を踏まえた活用内容

(1) 就職指導の強化について

① 卒業生の活用

各学科4年生（理学療法学科昼間部・夜間部及び作業療法学科昼間部・夜間部）に対し、医療現場で働いている卒業生を講師とした特別就職指導講義を開催し、就職に関する助言や先輩として参考になるメッセージを伝えていただく。（平成26年度から実施）

② 教員による就職指導面の個別面談の強化

各学科4年生（理学療法学科昼間部・夜間部及び作業療法学科昼間部・夜間部）に対し、各学科教員の就職指導に関する個別面談を強化していく（平成26年度から実施）

(2) 国家試験対策

① 4年生国家試験対策指導

各学科単位（理学療法学科昼間部・夜間部及び作業療法学科昼間部・夜間部）で4年生クラス担任教員を統括責任者として、各学科教員は国試対策の役割分担に基づき、例えば各教員が授業を担当している国家試験対象科目については、国試対策等の授業をしていただく仕組みを構築する。

② 1～3年次の平素で授業を活用した国試対策

各学科教員は、各教員が授業を担当している国家試験対策科目について、1～3年次の授業の中で、国試の過去問を活用する等、国試を意識した授業の展開をされるよう要請していく（平成26年度から）

(3) 日本リハビリテーション専門学校の「平成25年度自己評価・学校関係者評価報告書」

① 日本リハビリテーション専門学校の「平成25年度自己評価・学校関係者評価報告」の点検項目（中項目）の「基準3教育活動の点検中項目{3-18}資格取得の指導体制はあるか」の「今後の課題」の記載で、「各学科単位で4年生クラス担任を総括責任者とし、各学科教員は国試対策の役割分担に基づき、例えば、各教員が授業を担当している国家試験対象科目については、国試対策の授業等を実施して頂く仕組みを構築する他、各学科教員が授業を担当している国家試験対象科目については、1～3年次の授業の中で、国試の過去問を活用する等国試を意識した授業を展開されるよう要請していくこととする。

② 日本リハビリテーション専門学校の「平成25年度自己評価・学校関係者評価報告」の点検項目（中項目）の「基準4教育成果の点検中項目{4-19}就職率（卒業者就職率、求職者就職率、専門職就職率）」の向上が図られているか」の「今後の課題」の記載で、「医療現場で働いている卒業生を講師とした特別就職指導講義を開催し就職に関する助言や先輩として参考になるメッセージを伝えて頂く他、各学科教員の就職指導に関する個別面談を強化していくことも必要であると明記。